

同志社大学国文学会彙報

昭和四十三年国文学会役員

会長

常任委員

土橋 寛

南波 浩

小森 啓助

里井 陸郎

広川 勝美

駒 木 敏

佐々木 勝二

水 上 勲

滝井 幸雄

窪田 正人

斎 藤 昭

山 崎 一

大川 かゆり

二十八名

作文教育―「愛国心」について

民族教育における言語教育

教育問題懇談会（八月一日・府立勤労会館）

学習指導要領の改定と教科書問題

職場における教研体制の現状と問題点

特別報告 集団主義教育

―高槻六中の場合―

国文学会（十二月八日・同志社大学尋真館）

文学教育と作文教育で何をおさえるのか

―現実をくぐる方法論を通して―

日記作者と外部世界の接点

―蜻蛉日記と紫式部日記―

講演 文学と社会 神戸大学教授

昭和四十二年卒業論文題目

日本文学古代前期

万葉抒情詩の成立

「人麻呂挽歌の一特色について」

大伴旅人論

万葉集防人歌

人麻呂の文学

田中 勝幸  
金 静 順

徳永 光次郎

駒 木 泉

高槻 六中  
教育推進委員会

辻 正 博

原田 敦子

猪野 謙二

宮崎 安子

鶴田 三枝子

宇 野 瞳

四方 都子

今井 昌子

今井 昌子

昭和四十三年国文学会活動状況

国語教育研究会（七月七日・教育文化センター）

古典教育について

同志社大学国文学会彙報

宮井 俊道

日本文学古代後期

大君と浮舟

赤間 容子

「和泉式部日記」からみた式部の人物像

天野 善美

源氏物語―藤壺宮の一生―

川部 容子

源氏物語「藤壺宮像」

北村 幸子

薫の姿貌

黒田 靖子

紫式部日記論

西山 久代

蜻蛉日記 ―道綱母の人間像―

白木 孝子

「和泉式部日記」を通してみる式部その人

鈴木 敦子

源氏物語第二部の世界

山田 則夫

日本文学中世

狂言の価値

有田 勝明

「歎異抄」

―親鸞語録にみる文芸性の考察―

藤本 淳子

「今昔物語集」にみられる人間喜劇

伊藤 千恵子

能における「妄執」

松本 久子

徒然草の美意識考察

松尾 恵子

―その中世的要素と展開―

松尾 恵子

「つれづれ草」―兼好の自己矛盾―

西村 淳子

平家物語の主題

目 桂子

説話と説話文学

―今昔物語集をとおして―

高垣 幸子

世阿弥

富永 晴美

幽玄美の展開

八木 千枝子

徒然草 ―その無常観を中心に―

山本 隆子

平家物語を典拠とした修羅能について

八尾 崇

「忠度」における中世的美について

赤松 カホル

親鸞の歎異抄に於ける文芸性

金岡 正子

平家物語女性像

西川 隆史

「平家物語」における義経像

花井 良次

日本文学近世

黄表紙とその時代性について

井上 迪子

近松の世話浄瑠璃

「心中天の網島」を中心として

川村 明子

西鶴織留

野島 郷子

好色五人女

徳永 和子

近松の芸能論

徳永 和子

―近世演劇論の展開―

本田 直明

日本文学近代・現代

大宰治の自己肯定のあり方

荒木 昭子

野上弥生子論

枝 並 梢

遠藤周作論 ―その信仰と文学―

舟 橋 久 栄

島尾敏雄論

長谷川 匡 男

有島武郎の倫理観

井 内 素 子

童話を主とした展開

神 谷 紀 子

椎名麟三論 ―キリスト者椎名―

神 谷 紀 子

「大江健三郎論」

神 成 研 二

―現実認識とその方法―

加 藤 矩 子

有島武郎論「自我確立の方向」

加 藤 矩 子

夏目漱石論

河 合 康 子

―自我意識の問題点と則天去私―

河 合 康 子

武田泰淳の世界―その「生」を支えるもの―

北 川 正 始

椎名麟三論

北 川 正 始

庶民から知識人への移行をとらえて

北 村 肇

芥川龍之介論

久 保 田 和 弘

倉田百三―思想と文学

口 羽 義 三

大宰治論

森 鮎 子

梶井基次郎における転位とその方法

―実存的イメージを追って―

中 本 曙 子

樋口一葉論―その女性観について―

中 西 郁 代

庄野潤三論 ―日常性の文学―

西 川 千 洋 子

安部公房論 / 現代における人間存在の認識

三島由紀夫論

岡 戸 繁 夫

夏目漱石作品論

崎 重 敏 幸

―初期作品の社会批判の内容―

佐 々 木 勝 二

宮本百合子の文学

佐 々 木 勝 二

―「伸子」の創作方法―

四 宮 マ ス ミ

夏目漱石論

白 石 紀 美 子

石川啄木 状況との対決に至る思考と文学の統一

白 石 紀 美 子

―自然主義への接近から超克への過程を通じて―

白 石 紀 美 子

芥川龍之介論

谷 浦 幸 子

中野重治論 ―春さきの風から五勺の酒―

寺 倉 寿 子

北村透谷論

津 田 嶺 子

大江健三郎論

和 田 匡 弘

—その性的なるものについて— 渡辺 哲則

伊藤整論—戦時下におけるその思想— 山田 千里

島尾敏雄論 山地 丸子

「中期の太宰治」 細井 元子

『四季』研究 井村 睦子

「武田泰淳論」—人間存在について— 西岡 宏堂

有島武郎論—自己実現の方向— 竹内 和子

田村隆一論—文学の自律性について— 守谷 佳紀

花田清輝論—現代文学の可能性— 菅 道 泰

小林多喜二論—その思考方法について— 由井 建二

高見順論 伊藤 幸子

「徳田秋声論」—秋声リアリズムの特質について— 松田 豊

国語学

文章論 福山 矩男

広告の文章 平野 喜孝

「うつくし」の意義の変遷 稲田 節子

船泊方言の実態

新庄村の方言

広告の文章

「サンデー毎日」の記事「追跡者」について

京ことばの待遇表現

小池 広子

中山 慧子

岡本 苑子

梅原 康裕

平尾 讓一